

発行所
カトリック福江教会
広報委員会
五島市末広町3-6
☎0959(72)3957
●ホームページ●
<http://fukuechurch.jimdo.com>

新年の堅信式

主任司祭 中村 満

新年おめでとうございます。月遅れの挨拶になりますが、小教区報は本号が新年号になりますので、遅ればせながら新年のご挨拶を申し上げます。同時に、今年も神様の祝福に満たされた良き年でありますように祈念いたします。

今年も年明け早々の一月二二日に下五島地区合同堅信式が行われ、十四名の受堅者が誕生しました。水ノ浦教会が五名、浦頭教会が三名、福江教会が六名という受堅者数で、他の教会には受堅者がいませんでした。年によって違いが生じるのは当然ですが、それにしてもという思いが強くなります。力不足は否めませんが何か対策はないかと悶々としています。受堅者が聖霊の息吹に満たされ、福音の証人、未来の教会の担い手になってくれることを心から

願っています。堅信の秘跡の素晴らしさは、聖霊である神が受堅者一人一人の下に來られ、祝福し、愛の泉となり、愛の源として留まって下さることだと言えます。聖パウロはローマの人々への手紙の中で「私たちに与えられた聖霊によって、神の愛が私たちの心に注がれている。」と語っています(ローマ5:5)。注がれていると訳したギリシャ語は、*ἐκκενθη*で、流れ出す、あふれ出るとも訳すことができます。秘跡を受けることによって与えられた聖霊を通して、神の愛が私たちの心の中

で流れ出し、あふれ出ることが実現することが何よりも素晴らしいことだと言えるでしょう。いわば、とてもなくあふれ出る愛の泉が自分自身の中に生じ、そこから絶えず愛の力をくんで飲むことができるようになることが堅信の秘跡を受けた者の特権だと言えるでしょう。汲んでも汲んでも尽きることはない愛の泉があつて、そこから何時でも汲んで飲めるのであれば、それこそ神の愛に常に生かされることができます。堅信によって聖霊を迎え、愛の泉を永久に持つことができるのが、私たちの素晴らしさです。人間の愛も強く、深いものです。しかしその愛には必ず限界があります。限界を超え、際限なく愛を生きるのは、限界のない神の愛に支えられるしかありません。無限の愛の源、泉を与えて下さることがイエス様が実現して下さった救いの業の一つと言えるでしょう。だから、堅信は秘跡の一つになっているのです。

列福されて

一年がたった高山右近

助任司祭 小島 明

皆さんは福者ユスト高山右近の記念日がいつかを知っているでしょうか。実は二月三日の土曜日でした。二〇一七年二月七日に大阪で列福式が執り行われました。早いもので列福一周年ということになります。列聖の動きが少しずつなされています。列聖の吉報を心から待ちたいと思います。

さて、私は一昨年の夏季休暇で大坂、京都、兵庫の二府一県を旅行し

ました。立ち寄ったカトリック高槻教会で高山右近の渾身の決めセリフが刻まれている小さなプレートが売られていたのを思い出しました。そのプレートには、『現世においてはいかなる立場に置かれようと、キリシタンをやめはしない。靈魂の救済のためには、たとえ乞食となり、司祭たちのように追放に処せられようとも、なんら悔いはない』とあります。

これは一五八七年に発せられたパレン追放令によって、棄教に迫られた時のものです。司祭生活をしている私にとっては心に突き刺さる言葉でした。今でも苦しい時や悩みのうちにある時の励まし言葉としてあります。受難の時に最後まで献げ尽くしたイエス様と重なるころがあります。高山右近にとってもキリシタンであることを全く恥とせず、キリシタンとして生きることに自分にとっての『生きがい』と『希望』という自由を見いだしたのだと思います。心の底から『キリシタンが生きがい』という思いが、今信仰を生きている人たちの中でどのくらいいるのでしょうか。信仰を生きる・証しすることの難しい時代にあつて、高山右近の秘めたるものはわたしたちの心の中に光り輝くものとしてあり続けています。(次頁へつづく)

列聖されて一年が経ちますが、高山右近の根付く信仰は時代が流れても決して風化されることなく、幾度となくわたしたちの心に投げかけられています。高山右近にとつて十一歳が大きな転機として、素晴らしいものを受けることができました。わたしたちも生きていく中で、心の中で光り輝くものを身に着けて歩んでいきたいと思えます。それに出会えた時に心から『なんら悔いはない』と言うことができるでしょう。皆さんが会うことができるといえるように高山右近は祈り続けます。

小島神父様霊名のお祝い



昨年十二月十日(日)二番ミサにて、フランシスコ・ザビエル小島明神父様の霊名のお祝いが行われた。信徒代表より花束と記念品、霊的花束の贈呈とお祝いの言葉が述べられた。

堅信式 2018

一月二一日(日)十一時より、下五島地区合同堅信式が福江教会で行われた。当日は好天に恵まれ、



神父様より「まだまだ至らない部分も多いかもしれませんが、一歩一歩頑張っていきたい。」とお礼の言葉述べられた。

普段、浜脇教会や井持浦教会など巡回教会での日曜ミサが多く、福江教会で日曜日の二番ミサは久しぶりとの事。病人訪問や子供達への指導など多忙を極める中、毎週の「お知らせ」をまとめ、情報提供を欠かさず行うのは並大抵の努力ではないと思います。フランシスコ・ザビエルのように様々な地域を歩きます司牧に励まれるよう、お体を大切にしながら若さとパワーで頑張ってください。

皆で高見大司教様を教会の境内で出向かえた。大司教様は、受堅者一人一人にこやかに話しかけられ、握手をされた。

今年の受堅者は全体で十四名、福江教会の信徒は六名が堅信の恵みを授かった。

堅信の儀では、受堅者一人ずつ名前が読み上げられた後、大司教様が手をかざして聖霊の恵みを受けた。続いて悪霊の拒否と洗礼の約束の更新を宣言した。その後、大司教様より額に塗油をいただき、秘跡を授けられた。

大司教様は説教の中で、「堅信の秘跡によって、大人の信徒への一歩を踏み出した。日常生活においてもカトリック信者として宣教をする使命を皆さんは持っています。まずは事あるごとに祈り、イエス様の愛に感謝する事から始めて欲しい。」と話された。



堅信式の後感謝式が行われ、大司教様へ水之浦教会の中学生と、保護者代表として、浦

頭小教区の保護者より感謝の言葉が述べられた。

受堅者の生徒たちにとって、大人の信徒としての実感はまだまだ乏しいでしょうが、これからの信仰生活を通して聖霊の恵みが浸透するように願って止みません。

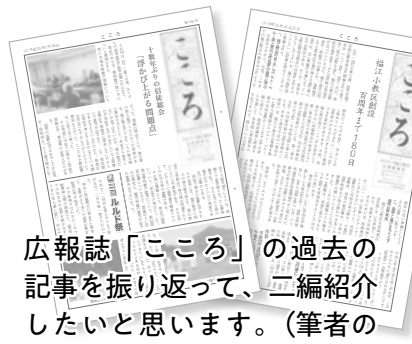
堅信おめでとう!

《福江小教区受堅者》

- ミカエル 下崎 泰一
- ヨハネ 白石 大
- ヨゼフ 宮崎 圭汰
- ベルナデッタ 柿山 葵
- マリア 中田 美和
- マリア 森 憩



ばつくんば



過去の紹介記事の二編を振り返って、記事を振り返って、二編を紹介したいと思います。(筆者の名前は伏せさせていただきます。)

○第 111 号

(平成 9 年 9 月発行) より

「侍者君」頑張つて!!

白地に縦二本の幅広い赤色の服。福江教会の侍者の制服である。ごミサの折、神父様の側にいて、ごミサのお手伝いをするのが侍者の務めのようなのである。時々この制服が見えない。ちよつと寂しく思う。去年の十一月一日の諸聖人の祝日の二番ミサに、私は勝手に侍者の役をしに行った。私服のまま神父様のお手伝いをしようと思ったが、自己採点で四十点のきであった。それは私の子ども時代と侍者の仕方が一部変わっていて、面食らい、柄にもなく慌てて、落ち着きをなくしてしまっていた。やっぱり大人には大人の役割があることを痛

感した。

私がミサン仕えをしたのは、次の動機からである。小学校四年生の頃同級生と遊びながら下校していた。すると後ろから長身の中田神父様が急ぎ足で来られ、すぐ追いつかれてしまった。私を見て名前を尋ねて下さった。

「○○です」

「○○、明日からミサン仕えは、しに来いよ」と言われた。びっくりにして我が耳を疑った。

「○○は、明日からミサン仕えはしに来い」

また言われた。嬉しくて「はい」と答えていた。嬉しくて嬉しくて、友達の前から離れて大急ぎでばあちゃんの家へ走った。

「ばあちゃん、おらア、ミサン仕えはしに来いと神父様から言われた。明日から毎朝行くけん」早口で言った。

「良かったね、○○」

と祖母は優しく抱き寄せてくれた。祖母は前々から「○○が、ミサン仕えをするようになれば」と口癖のように言っていた。

私の子どもの頃は、ミサン仕えは男の子の憧れであり、名譽なこころと思っていた。それから大雨が降ろうが、雪が積もり寒さが厳しくても、目をこすりながら、指先

に息を吹きかけながら二歳年上の姉と教会へと急いだ。友達四、五名と四年間支え合いながら交代でミサン仕えをした。

(中略) 小学生の男子の皆さん。

勉強も大切ですが、今しかできない侍者の奉仕をみんなで話し合い、曜日を決めて、健康に注意し、責任をもって務めてくれませんか。神様も皆さんの奉仕を心に留めて、皆さんに報いてくれる筈です。私たち大人も能力や神様から戴いたタレントに応じて神様のために、教会の発展のために頑張ります。

○第 114 号

(平成 10 年 6 月発行) 『母の日』

にちなむ随想二題』より抜粋

◆親思う心に勝る親心

私が五十歳を過ぎたころ、勤め先の執務室から窓越しにふと外を見ると、玄関先を入ろうとする腰二重の老婆がいた。よく見ると、風呂敷包みを背負い、片手に重そうなる荷物をさげた母の姿であった。

駆け寄って「ドウシタ？」と尋ねると、「めのは(ワカメ)が乾いたから食べさせんばと思つて、じゃが芋といっしょに持つてきたから」と言う。そのうえ急いで胸

元の巾着袋(財布)から一枚のお札を出して「男はいつお金のいるか分からん、恥かかんごと持つてかんね」と言つてポケットにねじ込む。

当時、母は父が亡くなった後も住み慣れた郊外の弟宅で暮らしていた。前は遠浅の海で潮時には少しばかりのワカメがとれる。それを持つてきてくれたのだ。後ろでは猫の額ほどの段々畑を作り、ナス、キュウリ、サト芋など旬の物を植えて、とれると私に持つてきてくれていた。母は別れ際に、決まつて「日曜のごミサには行つていのか、人様に迷惑をかけたリせず、達者で働きなさいよ」が口癖であった。帰りはタクシーで帰るように言つても、中学校の前からバスに乗るからと言う。当時はさして気にもしなかつたが、今にして思えば子どものことを考えてくれる母の気持ちは本当にありがたかつたと思う。と同時に、子どもはおふくろから見るとまだまだ子どもだったのかと再確認した次第である。

いま、教会では聖母月。今年も巡りきた「母の日」に、机上の老父母のスナップ写真に手を合わせるとき、視線は自ずと母の方向に向けられてしまう。

司祭団マラソン大会

一月三十日(火)に恒例の司祭団マラソン大会が開催されました。今回は新たに駅伝タイプも追加



され、多くの神父様とサポーターの信徒らが参加し小雪が舞う寒さの中、堂崎教会から福江教会までを(駅伝タイプは三区間

お願い



教会聖堂前の広場に車を止められる方へ

主日のミサ終了後、正門(図の下向き矢印)方向へ車が集中し混雑を来しています。

司祭館付近に駐車している車両については、裏門(上向き矢印)からも出ることが出来ますので、そちらを利用して下さい。

また、裏門前の通路(司祭館とルルドの間)に車を止めると裏門が塞がってしまいますので、駐車の際は

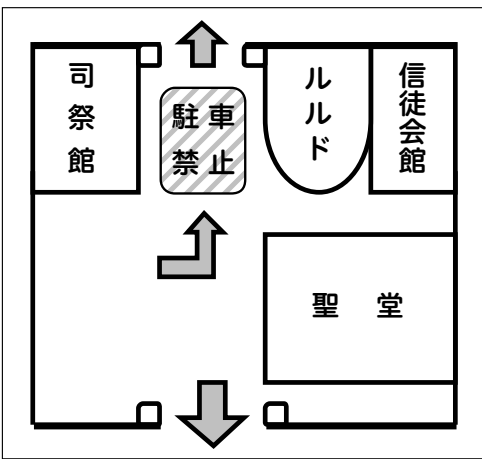
に分けて)駆け抜けました。ランナーの中には、福江教会前主任神父の下口神父様もいて沿道の園児たちの応援団に笑顔で応えておられました。



に付けて)駆け抜けました。ランナーの中には、福江教会前主任神父の下口神父様もいて沿道の園児たちの応援団に笑顔で応えておられました。



ご注意ください。ミサ後の混雑緩和のため、周知の程お願いします。



クリスマス2017



今回から馬小屋が新しくなりました。また、今年もクリスマス夜半ミサ後に信徒会館にてぜんざいサービスがありました。その他、クリスマス募金にも多くのご支援を頂きました。ご協力下さったみなさん、ありがとうございました。



今後の予定

● 黙想会の日程

昼の部：3月13日(火) 15日(木) 9時

夜の部：3月12日(月) 14日(水) 18時半

講師：広島教区長 白浜満司 教授
● 聖週間のミサ予定
3月29日(木) 31日(土) 19時
4月1日(日) 6時、9時

編集後記

広報誌「こころ」も、いよいよ今年度最後の発行になりました。みなさんいかがお過ごしでしょうか。

昨年暮れ頃からインフルエンザが大流行したり、今年に入っては一月と二月の二回も大雪が降ったりと、高齢の方にはこたえる冬になっている事でしょう。本格的に寒くなる前に、福江教会の聖堂内のエアコンが一部新調されていました。おかげでミサ中の寒さを幾分か和らげることができているかと思えます。

思えば、数年前まで下足を脱いで御堂に入っていたのがそのまま入れるようになったり、小さい子供連れ優先席を設けたりと、よりミサに預かりやすくなる工夫が施されて良い事だと感じます。こういったハード面だけでなく、ミサの内容を理解しやすいような説明や、教会を離れている人や未信者の方に興味を持っていただけるようなソフト面の工夫も必要だと思います。具体的には難しいのですが、まずは出来るだけ多くの人に率直な意見を聞く機会を作り、ニーズを表出させる事から始められればと思います。

今後とも信徒の皆さんのご協力が必要です。よろしくお願ひします。(N・H)